

2005年12月

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

2005年は、ようやく21世紀らしい顔が見えはじめた。

山梨大などのグループによるエナメル質再生（2月24日）から、粘膜再生や骨髄再生（9月24日）の成功は、本格的な再生医学を予測させた。また石油化学製品の大幅な値上げ（9月25日）が、高品質で生体に安全な材質を生み石油以外の原料からより本物を求める礎となった。

一方、医療制度の改革や薬事法、そして個人情報保護法と患者の長期継続管理制度などの導入は、ようやくイギリスやオランダの保健システムに追いついた、と心躍ったものである。大阪府北部の箕面市が管理登録システムを発足させて35年が過ぎた今、ようやく花開くと思ったその時、一瞬にして暗天となるニュースが届いた。来年度は大幅な診療報酬の削減（10月4日）や70歳以上の高齢者の窓口負担割り合いを原則3割とする（10月5日）ことなど、歯科医師だけでなく、高齢者までがなげきの壁にぶつかってしまった。

さらに追い打ちをかけて12月1日には、「かかりつけ」歯科初診料の廃止が「日歯事件」を受けて方針づけられた。となると、医療制度や人間の健康をたやすく変えられる政治とは何と恐ろしいものかと思わざるを得ない。長年かけて培ってきた保健医療や予防医療の熟成はいつになることやら計り知れない。

予防医療や歯周医療の最高技術を身につけた歯科医師は、12月3日厚生労働省SIDS「乳児突然死症候群をなくすために」という政府広報について、今さら何を寝ぼけたことを・・・と思っているに違いない。少なくとも人間歯科学研究会報を読まれた先生方や、勉強を共にしてきた先生方は昨年度中にSIDS、3種のウィルス、2種の高熱病の日本上陸を懸念し、診療室では特に注意してカルテに記録を残すことを義務と心得ていたはずであるから・・・。

とにかく、2005年は無事平穏に過ぎたことと思います。2006年はプロフェッショナルケアとセルフケア（プライマリーケア）の充実が求められます。気を入れて新年を迎えましょう。